

4 勤労者福祉

～市内の企業で、勤労者の働く環境が充実し、安定的な雇用が図られているまち

<A 基本計画の目標>

勤労者が心身ともに健康で働き続けられるよう、福利厚生制度の充実に努めます。
 レイ・ウエル鎌倉の有効活用を図ります。
 技能奨励事業を進めます。
 勤労者の働く環境の向上をめざします。
 若年層や高齢層などの実態に合った雇用支援策を進めます。

<B 目標指標：市民意識調査による市民の満足度>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H22	H23	H24	H25	対前年度
市民満足度	サブタイトルにあるまちの実現状況について、市民が実感している割合	23.3 %	19.6 %	21.1 %	20.4 %	24.4 %	▲

<C 目標達成に向けた25年度の実績と自己評価>

※この分野の目標達成のために取組んできた事業の実績(前年度事業及び実施計画事業を中心にコメント)

【市民活動部】	自己評価
就職支援相談を毎月実施し、就職を希望する方々の適職の相談や求職情報の探し方などについて14人の実績がありました。(相談会場となるレイ・ウエル鎌倉の利用停止により平成25年11月実施分以降の開催ができませんでした。 ハローワーク藤沢管内の自治体と連携し、前年より7社増やして企業32社と求職者を橋渡しする就職面接会を実施し、参加者は108人でした。 前年に引き続き、ハローワーク藤沢から市内事業所の求人情報提供を受け、ホームページ掲載や公共施設配架により、求職する方がより身近で求人情報を得られるようにしました。	▲
就労に困難を抱える若者のための若者サポートステーションとの連携事業として、体験就労先を開拓する市民協働事業をNPOとともに実施し、3社という目標数には至らなかったものの体験就労を受け入れる事業所を2社開拓するという一定の成果を上げることができました。	○

前年度当初目標に対し、◎=80%以上○=50%以上△=30%以上×=30%未満

<D 8年間(平成18～25年度まで)の取組の評価>

【市民活動部】
「鎌倉市は、市内の企業において、勤労者の働く環境が充実し、安定的な雇用が図られているまちだと思いますか」という問いに、市民満足度は24.4%で、前年度より4.0ポイント増加しています。 また、市内において中小企業勤労者の福利厚生向上に取り組んできた、鎌倉市勤労者福祉サービスセンターの広域化への取組を支援し、平成24年10月に藤沢市、茅ヶ崎市の2市とともに中小企業勤労者の福利厚生向上に取り組む湘南勤労者福祉サービスセンター事業が発足しました。このことにより、スケールメリットを活かした利用者へのサービス向上を行なう体制を整えました。 レイ・ウエル鎌倉については、利用者数の伸びがない中、指定管理者による講座開催による継続利用増加に向けての取組をおこなってきましたが、耐震診断によって館の継続利用には危険が伴うことが判明し、平成25年11月30日をもって利用停止措置をとりました。

<E 25年度までの未達成事業の課題・問題点など>

【市民活動部】

勤労者福祉サービスの向上策として、鎌倉市単独で取り組んでいた鎌倉市勤労者福祉サービスセンターによる中小事業者勤労者向け福利厚生事業の向上について、平成24年10月から藤沢市、茅ヶ崎市とともに広域に取り組む湘南勤労者福祉サービスセンターとして、規模と内容の充実を図りましたが、会員数の減少傾向に大きな改善が見られませんでした。今後も引き続き加入促進の体制強化などを図っていく必要があります。

<F この分野の取組が含まれる第3期基本計画の施策の方針>

【市民活動部】

分野名	施策の方針名
勤労者福祉	雇用支援の充実
	働く環境の充実
	技能振興の充実

<G F欄の施策の方針における今後の展開(取組方針)>

【市民活動部】

施策の方針名	市内事業所への労働実態調査により基礎資料を得るとともに、労働問題への啓発を図り、労働相談等の相談事業や雇用対策の充実を図ります。また、現在、求職者の方々にハローワークの求人情報を提供していますが、それに加えて市が直接収集する求人情報をホームページで提供し、市内求職者へのサービス向上につとめていきます。
雇用支援の充実	
施策の方針名	勤労者の生活の充実、安定を図るため、勤労者の福利厚生の充実に努めます。湘南勤労者福祉サービスセンターについては、加入促進活動により新規会員の獲得に努めるとともに、スケールメリットを活かし、より内容の充実した質の高いサービス提供を行うことにより、積極的に新規会員の獲得を図るよう支援につとめていきます。
働く環境の充実	
施策の方針名	技能者の経済的社会的地位及び技術水準の向上を図るため、優秀な技能者の表彰や技能職団体への助成などを行います。また、技能職団体の持つ技術を小中学校で披露するなど、より広く次世代に向けて技能振興をアピールしていきます。
技能振興の充実	

<H 実績指標:事業ごとの進捗を示す代表的な指標>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H22	H23	H24	H25	H22年度 目標値	H27年度 目標値
レイ・ウェル鎌倉の 利用者数(+)	レイ・ウェル鎌倉のホール や会議室等の年間利用者 数の合計	53,536 人	58,479 人	58,167 人	55,980 人	37,585 人	75,000 人	100,000 人
正社員雇用率 (+)	市民活動課で行っている 労働動態調査の結果、市 内事業者の雇用人数のう ち正社員の人数の割合	67.1 %	65.3 %	64.0 %	59.4 %	71.1 %	70 %	73 %

<I 事業コスト総額>

分野別事業費		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
施策コスト	決算値 (A)	320,154千円	308,195千円	139,542千円	147,483千円	127,440千円	119,341千円		
	(国・県)	14,892千円	8,600千円	8,600千円	0千円	0千円	0千円		
	(負担金等)	190,835千円	190,379千円	30,169千円	30,175千円	20,118千円	20,041千円		
	(一般財源)	114,427千円	109,216千円	100,773千円	117,308千円	107,322千円	99,300千円		
	人員配置数	4.0人	3.0人	3.0人	3.0人	3.0人	3.0人		
	人件費 (B)	35,707千円	26,693千円	25,855千円	25,857千円	24,557千円	23,544千円		
	総事業費 (A+B)	355,861千円	334,888千円	165,397千円	173,340千円	151,997千円	142,885千円		
	対前年比		94.1%	49.4%	104.8%	87.7%	94.0%		

鎌倉市民評価委員会の評価

◎ この分野の8年間の取組の進捗状況・取組のあり方に関する意見

- ・勤労者福祉はこれまでの勤労のスタイルや勤労者の社会的なニーズが激変したために、計画した施策が十分に機能したとは言い難いが、変化への過渡期と考え、今後どのように勤労者福祉を進めるか評価をしっかりと行うことが重要であろう。
- ・広域連携の中で勤労者福祉が位置づけられたことは評価したい。勤労者福祉サービスセンター事業の統合を進め、スケールメリットを活かした質の高いサービスを提供を目指していることは良い取組である。
- ・中小企業勤労者の福利厚生向上に貢献しているが、レイウエル鎌倉の廃止等、福利構成施設の減少があった。
- ・就職支援施策もハローワーク藤沢管内の自治体と連携するなどの働きかけをしたことは良いと思う。

きわめて優れていた：◎
 十分であった：○
 不十分であった：△

○

◎ 第3期基本計画に向けたこの分野に関する意見

- ・中小企業の福利厚生の意味合いは重要であり、広域連携のなかでサービスの充実を図っていただきたい。
- ・雇用支援は景気に左右される。景気がやや上向くなか、就職支援相談などにも経営環境が向上することが望まれる。求人情報の提供、面接会の実施などにさらに取り組んで欲しい。
- ・産業を振興し、特に女性、高齢者の雇用の機会を増やすことである。
- ・雇用機会創出よりも、現在鎌倉で働いている方々を支援する取組に特化し、その方たちが充実した労働を行っている姿を見せる事が、若者の勤労意欲を高める事にも繋がるものと思われる。
- ・就労支援活動にあたって、ミスマッチが生じないよう情報の提供方法に十分留意されたい。
- ・今後の勤労者福祉は若者の勤労意欲の掘り起こし、職業技術の獲得への補助、労働環境の充実と保証への支援など質が問われると考える。

◎ この分野の指標に関する意見

- ・市民満足度は20%台と低く、あまり変わっていない。上昇と下降がまだ安定しないが、正社員の雇用率が上がり、景気回復の兆しが雇用にも影響を及ぼしたのかもしれない。満足度の肯定者:否定者の比率が24:76であることを、企業側及び行政は重く受け止め、改善策を検討する必要がある。「わからない」などが38.9%もあるのは、労働環境に関する情報を一般市民が把握し難いことによる。
 - ・市としてできることは何かを今後は見据える必要がある。施策コストとの効率性を考えながら施策を実行していく必要がある。
 - ・鎌倉のペットタウンとしての面から見た場合、そもそもサブタイトルにある「～市内の企業で、勤労者の働く環境が充実し、安定的な雇用が図られているまち」として産業都市化する事が望まれているのか?いないのであれば、その事に満足を求めること自体が間違っているものと思われる。
 - ・正社員雇用率が上がっている。今、人材確保が難しいと言われている。労働環境が悪化している企業もあり
- 単純に正社員雇用率を見るのではなく、残業時間数など問題がないか、合わせて調べる必要がある。
- ・レイウエル鎌倉が廃止されたことから指標は新たに作成していく必要がある。

◎ この分野に関する総括意見

- ・中小企業の就業者への支援を行政がどこまで担うべきか再考が必要である。民間で出来ることは極力民の力を活用する方向で考えるべきである。
- ・雇用機会の増減については、景気に左右されることであり、市が主体的に行うことではないものと思われる。
- ・就職支援相談を実施しているが相談件数は少ない。
- ・サービスセンター会員において新規会員を上回る退会者があり、会員数増に結びつけることが困難である。
- ・技能振興については、鎌倉独自の職種、技能などを支えていくのか?どんな技能があるのか広報などを使って広めてほしい。市民でも良くわからない。
- ・勤労者福祉の問題は、行政側以上に日本経済・景気と企業側に依存するところが大きい。